

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、新たな検査項目の受託開始について、下記の通りご案内いたします。
健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。
謹白

記

■ 受託開始日 2025年3月26日(水) ご依頼分より

■ 新規項目内容一覧

項目コード (旧項目コード)	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
00U08.2 (0U08.3)	マイコプラズマジェニ タリウム核酸および マクロライド耐性変異 同時検出 6B617-0000-050-862 6B617-0000-001-862	分泌物	ARR (r)	凍結 (22日)	3~5	350 ※7	PCR (リ アルタイムPCR)	検出せず	重 下記 参照
		部分尿 0.7		凍結 (7日)					

※7：微生物学的検査判断料

- 他項目との重複依頼は避けてください。
- 分泌物：子宮頸管周辺の過剰な粘液を綿棒等で取り除いた後、滅菌スワブを子宮頸管内に挿入し、同じ方向に複数回まわして採取してください。スワブは滅菌ポリスピッツ（ARR）に入れ凍結保存してください。スワブの指定はありませんが、ブレイクポイント（折り目）のあるスワブをお勧めいたします。
- 部分尿：最後の排尿から少なくとも1時間以上経過後の初尿を採取してください。
- 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。



● **マイコプラズマジェニタリウム核酸およびマクロライド耐性変異同時検出**
性感染症における診断補助および適切な抗菌薬の選択に有用な検査です。

マイコプラズマジェニタリウム (*Mycoplasma genitalium*: MG) 感染症は、男性では尿道炎、女性では子宮頸管炎を引き起こす性感染症の1つです。

マイコプラズマジェニタリウムは、薬剤耐性化が世界的に問題となっており、日本においても第一選択であるマクロライド系抗菌薬に対し、50%以上が耐性化しているとの報告があります。多剤耐性例も確認されるなど難治例が増加していることから、薬剤耐性、特にマクロライド耐性を確認するための検査が重要になると考えられています。

本検査は、検体から抽出したDNAを用いて、マイコプラズマジェニタリウムDNAとマクロライド耐性関連変異である23S rRNAドメインV領域の主要な変異を同時に検出いたします。マイコプラズマジェニタリウムのマクロライド耐性を早期に把握することで、適切な抗菌薬を選択できるようになることが期待されています。

▼疾患との関連

性感染症
尿道炎
子宮頸管炎

▼関連する主な検査項目

淋菌DNA、クラミジアトラコマティスDNA
淋菌およびクラミジアトラコマチスDNA同時同定
脛トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出

▼検査要項

検査項目名	マイコプラズマジェニタリウム核酸およびマクロライド耐性変異同時検出	
項目コード (旧項目コード)	親：00U08 2 (OU08 3) MG核酸およびDR変異同時検出 子1：(OU09 1) マイコプラズマジェニタリウムDNA 子2：(OU10 1) 23S rRNA遺伝子変異	
検体量	分泌物	部分尿 0.7mL
容器	ARR (r) 滅菌ポリスピッツ	
保存方法	必ず凍結保存してください	
所要日数	3~5 日	
検査方法	PCR (リアルタイムPCR)	
基準値 (単位)	検出せず	
報告範囲 (単位)	子1：検出せず、陽性 (+)、判定不能 子2：同上	
検査実施料	① 350点 (「D023」微生物核酸同定・定量検査「12」)	
判断料	150点 (微生物学的検査判断料)	
備考	<p>重 他項目との重複依頼は避けてください。 分泌物：子宮頸管周辺の過剰な粘液を綿棒等で取り除いた後、滅菌スワブを子宮頸管内に挿入し、同じ方向に複数回まわして採取してください。スワブは滅菌ポリスピッツ (ARR) に入れ凍結保存してください。スワブの指定はありませんが、ブレイクポイント (折り目) のあるスワブをお勧めいたします。 部分尿：最後の排尿から少なくとも1時間以上経過後の初尿を採取してください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。</p>	

① 「マイコプラズマ・ジェニタリウム核酸及びマクロライド耐性変異同時検出」は、以下のいずれかに該当する場合であつて、リアルタイムPCR法により測定した場合に算定する。

ア マイコプラズマ・ジェニタリウム感染症を疑う患者に対して、治療法の選択を目的として行った場合。

イ マイコプラズマ・ジェニタリウム感染症の患者に対して、治療効果判定を目的として行った場合。

●参考文献

日本性感染症学会：性感染症 診断・治療ガイドライン 2020. (臨床的意義参考文献)